

「平成31年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」における本校の児童の体力分析

1 資料から読み取れること

(1) 資料1「平成31年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査小学校用 学校票」の見方

- ・学年別、男女別、種目別で集計されている。
- ・それぞれ学校の値が市区町村（江戸川区）、東京都、全国の値と比較されている。
- ・比較する数字は「Tスコア（平均を50とした偏差値）」。
それぞれの値と比べて、本校が上回っているものについては、青
下回っているものについては、赤 で表示されている。

江戸川区と本校を比較したものを比べると、

96項目（6学年×男女×8種目）中、青が36（昨年度33）

赤が46（昨年度43）項目ある。

青が3項目増え、赤が3項目増えたということが分かる。

【資料を読み取る上での注意点】

※成人する前の人間の体力については、「体格」により左右される部分が多い。「身長が高くなればストライドが伸びる」、「体重が増えれば筋力も増加する」などは端的な例である。学年が上がれば体力が伸びるのも当然のことである。よって、「体格のTスコア」と「種目のTスコア」を関連づけて、考察していく必要がある。ちなみに体格で見ると、1年女子、2年女子、3年男子、5年男子は区平均より小さく、3年女子、4年男女は大きいということが言える。

(2) 資料2「西一之江小学校 体力テスト 経年変化」

①種目別平均値 ②Tスコアの見方

体力についても、学力についても、単年だけの結果を見て「上がった下がった」を考察するのではなく、経年で変化を見ることが大切である。その学年の児童の体力がどのような変化をたどっていくのかが重要である。

① 種目別平均値

昨年度の平均記録と比べてみると、記録が伸びた項目が40項目、記録が縮んだ項目が51項目となっている。種目ごとに見てみると、長座体前屈、50m走、ソフトボール投げでの赤字が目立つ。

②Tスコア

(i) 資料を横に見てみると…昨年度との比較

偏差であるTスコアの推移を見てみる。昨年度とのTスコアと比較して、上がったものは青で、下がったものは赤で、表記した。すると青が46、赤が48項目あることが分かる。

(ii) 資料を縦に見てみると…種目別

資料を縦、つまり種目別に見てみると、「20mシャトルラン」では、青の数値が10項目あり、「50m走」では赤の数値が9項目となっている。

2 来年度に向けて…

昨年度と比較すると、平均値が下がった項目が増えた。学校として全体的な底上げをしていく必要があると考えられる。4・5月にパワーアップ月間が設定されているが、学級開きや運動会の練習等で十分な取り組みをすることは難しい。したがって、パワーアップ月間を年度末に設定したり、年間を通した取り組みを考えたりする必要があると考えられる。特に低学年は「反復横跳び」などの動きが難しい物を中心に、事前にしっかり練習しておく必要がある。

昨年度平均値が下がっていた「20mシャトルラン」は、今年度平均値が上がっているところが多い。気温が大きく影響することが考えられる。また、同じく平均値が下がっていた「長座体前屈」は測定方法によっても数値が変わりやすいと言える。事前に測定方法をしっかり確認して測定する必要がある。

【今年度取り組みたいこと】

・外遊び

日頃から、体を動かすことで少しずつ体力が向上していくことが考えられる。

・体育の授業の中での取り組み

日々の体育の授業の中で、準備運動の後に持久走を取り入れるなどすると良い。例えば、「勇気100%」の最後まで曲を流し、その間はずっと走るなどの取り組みを行えば、成果は期待できる。

今年度「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の平均値も下がっていたので、柔軟運動やフォームロケットを使った投げる運動も取り入れていきたい。

【以前からの取り組み・・・今後も継続していきたいこと】

・オリンピック・パラリンピック教育の推進

2020年に向けて、教育活動の様々なところで、オリンピック・パラリンピック教育を推進することで、児童のスポーツや自己の体力に対する関心を高められるようにしている。

・掲示板の有効活用

相談室前の掲示板を利用して、体力向上に関する情報を掲示している。「一流選手に学ぼう」に関することや大きなスポーツイベント（世界大会や全国大会）等、児童が興味・関心をもてるテーマを選んでいる。

・「西一之江スポーツクラブ」の実施

火曜日の放課後、6年生の児童（希望者）56名が、様々な運動に親しむ活動をしている。